

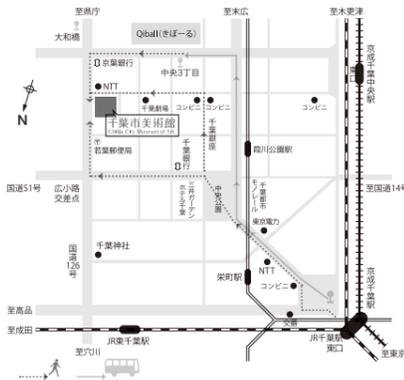
TAKEHIRO IKAWA

OR-|DECORATORCRA  
B|-EXPECTINGP  
ECTAT

【交通案内】

■ JR千葉駅東口より 徒歩約15分/バスのりは7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分/千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園」下車徒歩約5分

■ 京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分  
■ 東京方面から車では 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く  
※ 地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。  
※ シェアサイクルスポットがあります。



〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8  
電話: 043-221-2311(代表)  
<https://www.ccma-net.jp>

千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

ART LAB 04

つくりかけラボ 04 飯川雄大

2021年7月14日「水」—10月3日「日」  
休館日 8月2日「月」、9月6日「月」  
開館時間 午前10時—午後6時(金・土曜日は午後8時まで)

「つくりかけラボ」とは、「五感でたのしむ」「素材にふれる」「コミュニケーションがはじまる」いずれかのテーマに沿った公開制作やワークショップを通して空間を作り上げていく、参加・体験型のアーティストプロジェクトです。いつでも誰でも、空間が変化し続けるクリエイティブな「つくりかけ」を楽しみ、アートに関わることができる表現の場です。

つくりかけラボ04では、美術家の飯川雄大さんをお招きします。タイトルの「デコレータークラブ」とは、海藻や小石を身につけて姿を変えるカニのこと。飯川さんは、このカニを発想の原点に、鑑賞者の気づきや反応を誘うさまざまなプロジェクトを行ってきました。今回のサブタイトルは「0人もしくは1人以上の観客に向けて」。いったいどんな作品が姿をあらわすのでしょうか。いつもとはちょっとようすのちがう千葉市美術館をお楽しみください。

\*詳細はホームページでご確認ください

次回予告 つくりかけラボ05 松本力  
「SF とりはうたう ひみつを」  
2021年10月16日(土)—12月26日(日)

※館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。ご来館の際はホームページをご確認ください。

千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

もしくは1人以上の観客に向けて | デコレータークラブ | おもしろ

観覧料 無料

会場 千葉市美術館4階子どもアトリエ

主催 千葉市美術館

\*会期中、会場内メンテナンス作業を予定しています。作業日・時間帯については美術館ホームページでお知らせいたします。なお、作業中は室外からご覧いただけます。

「デコレータークラブシリーズは2007年から始まりました。飾り付けをするクラブ活動みたいですが、世界中の海に生息し擬態する性質を持った蟹の名前(Decorator Crab)に由来しています。

昔、この蟹を紹介する

ドキュメンタリー番組を見たのですが、ダイバーが海の中で何だかわからないモノ(実は蟹)を見つけたときの驚きが全く伝わってこなくて。

たくさん言葉や映像を使っても、どうしても伝えることができない部分があるということが面白かったです。

蟹は天敵から身を守るため、誰にも見つからないように行動しているだけ。でも、人は勝手に特別な状況だと感じたり、別の価値を付けたり、

一方通行のコミュニケーションから新しい要素を生みだしています。

「デコレータークラブ—0人もしくは1人以上の観客に向けて」では、蟹とその周辺に起こったズレを、美術館と観客の間にも作ることはできないだろうかと考えました。蟹のふりをして。

飯川雄大 いいかわ・たけひろ

1981年兵庫県生まれ、同地を拠点に活動。人の認識の不確かさや、社会の中で見逃されがちな事象に注目し、鑑賞者の気づきや能動的な反応を促すような映像やインスタレーションを制作。2019年「六本木クロッシング2019展」にて「ないでみる」(森美術館)、「美術館の七燈」(広島市現代美術館)に出品。2020年は、ヨコハマトリエンナーレ2020「Afterglow—光の破片をつかまえる」、高松市美術館の個展「デコレータークラブ—知覚を拒む」など。



上: 《デコレータークラブ—遠近の設計図》2019年|ペルト、反射テープ|サイズ可変|

東北芸術村推進事業交流型アートプロジェクト2019の展示風景、高萩市立秋山中学校、茨城県|撮影: 阪中隆文

下: 《デコレータークラブ—知覚を拒む》2020年|木材、塗料|サイズ可変|高松市美術館の展示風景(2020)|撮影: 飯川雄大

下: 《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年|木材、塗料|サイズ可変|

ヨコハマトリエンナーレ2020、プロット48の展示風景|撮影: 飯川雄大

ヨコハマトリエンナーレ2020、プロット48の展示風景|撮影: 飯川雄大

上: 《デコレータークラブ—0人もしくは1人以上の観客に向けて》2019年|木材、塗料|サイズ可変|

アートセンターオンゴーイングの展示風景(2019)|撮影: 飯川雄大 ※壁画は、Dex Fernandez「Garapata」2016

下: 《デコレータークラブ—石の近く、淡路島の中》2012年|インクジェットプリント|56×42cm

上: 《デコレータークラブ—ベリーヘビーバッグ》2010年|バッグ6点、ビデオ(サウンド、50秒)|

ヨコハマトリエンナーレ2020、プロット48の展示風景|撮影: 大塚敬太 写真提供: 横浜トリエンナーレ組織委員会

下: 《デコレータークラブ—ピンクの猫の小林さん》2020年|木材、蛍光塗料|サイズ可変|

並木クリニック中庭の展示風景(2020)、横浜市金沢区並木団地|撮影: 阪中隆文